

第4回 松尾・下久堅地区治水事業協議会 議事要旨

1. 開 会

松尾・下久堅地区治水事業協議会委員19名中、14名が出席し、協議会が成立しました。

2. 事務所長挨拶

3. 委員長挨拶

4. 議 事

(1) 第3回 松尾・下久堅地区治水事業協議会議事要旨について

第3回の協議会の議事要旨を説明しました。

(2) 松尾・下久堅地区の治水対策について

松尾・下久堅地区の治水対策について説明しました。

5. 閉 会

6. 協議会で頂いた主な意見

- ・ 実験視察で対策工B案により鷺流峡上流部の水位が低くなるということだが、鷺流峡下流で悪影響が出ることはないか？松尾・下久堅地区で水がつかないよ
うということはもちろんだが、一気に流下した際に川路・龍江地区に余計な水が来る
のではないかという心配を今現在も持っている。
- ・ 対策工B案は計画高水位と比較して0.2m以上の余裕があるから掘削を少なくしてもよ
く、それを考慮した結果がB'案であり、コストも安くなるという結論でよいか？
- ・ 対策工B案、B'案ともに対策後の維持管理が必ずついて回る。定期的または一定の堆
積があった段階で維持掘削を行なうという理解でよいか？
- ・ 対策工B'案による治水効果の持続性の問題では、評価が○ではなく△になっており、
今後どんなふうを考えていくかということを検討しなければいけない。この検討は治
水の検討委員会ですさらに深めていく必要があり、それによってどんな形にするか、ど
んな期間でやるかというようなことを今後考えていく。
- ・ 河川整備計画では、松尾あたりの計画河床高というのがあり、管理すべき河床の高さ
が決まっているという理解でよいか？
- ・ 計画上の目安となる河床高は、流水の動きによっていろいろ変化するため、妥当な高
さをなかなか決め切れない。ただ、現在提案の中の対策工における掘削量というのは
いくらでも決められる。
- ・ 対策工B案の改良案のモデルの動きを見て、このまま理想どおりにいってほしいと思
った。特に南原橋の下の左岸に手を加えず、風景をなるべく維持したままいける、こ
のB'案のアイデアはすばらしいと感じた。
- ・ 対策工B'案は、景観を守るということで土佐岩のところまで考慮に入れて、土佐岩
に影響を与えずに対策ができるというようなところもバランスが良い案であると思
った。
- ・ 想像以上の降水があったときに少し余裕があったほうが良いのではないかと思う。例
えば、対策工B'案で掘削範囲の面積が狭められているが、掘る深さはB案同様深いま
まにしておけば、想定外の出水に対しての効果が期待できないか。そうすれば、増水
したときの余裕がより担保できるのではないか。
- ・ 天竜川の河床は意外と浅く、深く掘っていくと基盤に当たる可能性がある。今の水位
の下げ方からすると、もう少しその周辺を検討する必要がある。また、あまり深く掘
ると埋め戻しが早くなるという傾向もある。従って、掘削の深さは、うまく持続す
るための深さというのをある程度決める必要があるのではないか。これらについては今
後もっと検討する必要があると思う。
- ・ 鷺流峡のいわゆる水を通すパイプの中の狭いところを広げようという考え方と、呑口
を広げようという考え方があると思うが、現状の一番狭いところがどこで、今回対策

をやったところの一番狭いところがどれだけになって、その差のいわゆる断面積が広がった部分はどのくらいあるのかというのを知りたい。ネックになっている部分がどれくらい削られたのかという部分に興味がある。

- ・ 「河川には計画河床勾配・計画高はない」との返答があったが、あやまりではないか。川路・龍江・竜丘対策治水事業の場合は、計画流量流下のための計画断面を確保するという意味の計画河床勾配が存在してきたので確認してもらいたい。
- ・ 計画河床高の設定については、地元住民にとっても「堤防から何m下がったところが危険性を判断する基準」というような目安があれば安心できると思われる。
- ・ 河床高については計画上の基準が設けにくい、想定外の災害によるH.W.Lの見直しもありうる、これらの考え方は時代と共に変わり得ると言える。例えば、18災では、北島堤防が破堤するような問題を経て国に予算要求をした結果、一気に整備ができた。この際の問題点は、天竜川の堤防というものは根固めが弱いということであり、ここに根拠を置いて整備方針を決めて、根固めを強くした。このように目標値を決めながら、時代と共に計画がまた変更されることもあり得る。河川整備は向こう30年間くらいを見ながら整備していく方針であり、その中で常に管理者である国はチェックし、住民の生活が安定するような、堤防後背地が安定するような方向で見ていく。鷲流峡も松尾地区が持続可能な安定性をもたらすということが保証されれば、地域の人たちは安心できるが、現在は共に検討していく段階である。そういう意味では、天竜川というのは刻々と変化するので、それをチェックしながら、地域の皆さんと共に検討課題を解決に向けていろいろやっていくということで、皆さんに今ご意見をお伺いしている。

第4回協議会の質問に対する回答

<質問>

現状の一番狭いところがどこで、今回対策を行ったことにより一番狭いところがどれだけ広くなって、その差断面積の差が断面積がどれくらいあるのか知りたい。

<現状の河積>

無対策の場合、ネック地点の南原橋付近で、河積（断面積）が最も少なくなっており、この区間で水位の堰上げが発生している。

<河積（断面積）の増加>

ネック地点の右岸側を掘削したことにより、河積（断面積）が最大55m²広がった。これにより、水位の堰上げが減少し上流側の水位を下けている。

